

令和元年 9月 定例会

◆(淵上陽一君) 最後に、菊池川流域日本遺産の今後の取り組みについて質問いたします。

私の地元山鹿市を含む菊池川流域は、日本有数の米どころであり、この地域で育まれる米は、全国的に高い評価を受けております。

また、すぐれた農業土木技術により、300年以上前に整備された井手が今も現役で棚田を潤し、地域には、豊作を祈るさまざまな祭りや風習など、豊かな文化が受け継がれるなど、米づくりを支えてきた先人の営みが大地の記憶として残るすばらしい地域です。

こうして、平成29年4月、このような歴史や文化が評価され、「二千年にわたる米作り」をテーマに日本遺産に認定されました。

以来2年半、流域の3市1町、玉名市、山鹿市、菊池市、和水町と、観光農業、文化財の各分野の民間団体で構成された菊池川流域日本遺産協議会が、国の補助事業を活用し、菊池川流域ならではの魅力を国内外に広く発信するとともに、日本遺産ガイドの育成や旅行商品造成につながる取り組みなどを行ってきました。

さらに、今年度は、菊池川流域日本遺産のコンセプトを「菊池川・ミネラルウォーターランド」と定め、菊池川のミネラルが育んだ質の高い食材の活用を通じて、おいしい地域ブランドのPRに取り組んでいます。

しかしながら、認定から3年目を迎え、文化庁の補助事業も今年度で一旦区切りとなることもあり、新たな視点による魅力づくりなど、今後の取り組みが課題となっています。

そのため、日本遺産のブランド力を生かして、菊池川流域の市町や地域団体が一体となって、流域活性化の取り組みをさらに推進していけるよう、県にもぜひ支援をお願いしたいと思っております。

菊池川流域日本遺産の魅力あふれる有形、無形のさまざまな歴史や文化を活用した地域活性化について、県としてはどのような支援が可能か、企画振興部長にお尋ねいたします。

[企画振興部長山川清徳君登壇]

◎企画振興部長(山川清徳君) 県では、文化庁の補助事業を活用したモニターツアーの実施やホームページの多言語化に加え、地域づくり夢チャレンジ推進事業により、関連施設をめぐるスタンプラリー、SNSを活用した食の魅力発信などの取り組みに対する支援を行っているところです。

さらに、今年度は、国際スポーツ大会の開催に合わせて多言語リーフレットを製作し、国内外から熊本を訪れる皆様に広く日本遺産をPRすることとしております。

議員御指摘のとおり、日本遺産認定から3年目を迎え、文化庁の補助事業が今年度で一旦の区切りとなりますけれども、引き続き、県としては、広域的な取り組みを支援するスクラムチャレンジ推進事業を活用し、菊池川流域の自治体が一体となって取り組む日本遺産のストーリーを生かした魅力づくりを積極的に後押ししてまいります。

[淵上陽一君登壇]

◆（淵上陽一君） 菊池川流域の日本遺産は、人吉・球磨における国宝青井阿蘇神社のような明確なシンボルではなく、米づくりというストーリーが認定対象であることから、関係する担当者の皆さんは、アピールのしづらさを感じておられます。

今後、菊池川流域においても、スクラムチャレンジ推進事業を活用して、流域市町村の取り組みを支援していくとのことであり、どうかよろしく願い申し上げたいと思います。

また、県北広域本部の皆様にも、しっかりと支えていただくことを心からお願い申し上げ、これにて準備いたしました質問を終わります。

最後まで御清聴ありがとうございました。